

みやの森通信



発達凸凹向けフリーペーパー 第37号:2025年02月01日発行 編集長:家森 謙
Ponteとやま(みやの森カフェ) 富山県砺波市宮森303 電話:0763-77-3733
メール:miyanomori.ponte@gmail.com

Ponteとやま facebook 検索



98歳 つれづれエッセイ vor20

川柳に遊ぶ

今年も下手なエッセイを書かして頂こう。
さて静岡に従弟がいるが彼は会社を息子に譲り、旅行、一木彫り
(挿絵)、Fujinomakuという名前で川柳を楽しむ好漢である。
彼が毎日新聞掲載百句記念の小冊子を送ってくれた。
彼の作品と彼自身の注釈を紹介しよう。

涙腺と前立腺で老い悟る

(涙もろいことと頻尿に悩むこの頃である)

当たり前のことだが、彼も私同様に歳を取っているのだなと感無量。

八十路過ぎ浮気したことまだ言われ (従兄宅での会話風景)

従兄とは私。女房が妬くほど亭主もてもせずと言うが、
しょぼしょぼした亭主より多少は浮名を流せる旦那の方が
暮らしに緊張感をもてるのじゃないか。
同席している女房ふたり、意味ありげににやりと笑ったのを記憶している。

怪我で行き風邪背負わされる待ち時間

(インフルエンザの流行時は待ち時間も安心してられない)

私も二時間待たされて診察五分、なんとかならんもんかなーと思ったことがある。
今は訪問医療で医師と世間話が出来た。有り難いことだ。

銀行でトイレ借りたら見張られた (来客がトイレ使う時は見張るのが決まりのようだ)

最近のことだが私も思い当たることがある。在るとき銀行でトイレを使おうとしたら和式しかなく
諦めて出てきたら、行員が入り口で見張っていた。よぼよぼの私に銀行泥棒ができるはずもない。
腹具合が良ければ一発かましてやりたいところだったが、銀行としてはマニュアル通りに動いて
いるのだろう。

ランドセル投げて飛び出す孫が好き

(帰るなり、ランドセルを放り投げて駆け出す。元気で頼もしい限りだ)

彼も私と同じ世代だからこんな句が出来たのだろう。私達が子供の頃は田舎では子供に勉強しろなど
と言う親はいなかったと思う。子供達は山野を駆け回り、川で鰻や蟹を追い回し夕陽を背負って
家路についたものだ。今は競争の激しい学歴社会にあってそうもいかないだろう。
今回は私の句を紹介しよう。

伊藤博芳 (みやの森カフェのお父さん)



なっちゃんの山紀行 白馬岳一泊二日の山旅 その2

夜中に暴風雨が窓ガラスを叩き付ける音がしておりました。それは夜が明けても治りませんでした。朝食後6時過ぎくらいに出発。暴風雨で真っ白な稜線を登ります。稜線なので樹木は無く吹きっ晒し。暴風雨がモロに襲いかかる。真っ白に霞む前方にツアー団体客の一群が見えたので、そこへ向けて一歩一歩。しかし暴風は勢いを増し、人間にドンと突き飛ばされるような威力です。当然よろけてしまう。

よろけながら登っていくと、ツアー団体客達が全員しゃがみ込んでいました。よろけて転倒しそうになってる私に「しゃがんだ方がいいですよ！」と。素直にしゃがんでみたものの、暴風雨に晒され、みるみる寒くなっていく。思わず「トムラウシ山遭難事故」を思い出しました。夏なのにツアー団体客が低体温症で8名死亡という恐ろしい遭難事故。あれもこういう吹きっ晒しの稜線で暴風雨に見舞われ、小屋に戻ろうとしたけど、客の1人が「明日仕事なのでどうしても帰りたい」と言うので下山を強行、暴風雨で歩けなくなり体温が奪われ… という事だった筈。

「戻ろう！」隣に居た夫にキッパリ言ってスタコラサッサと白馬岳山荘へ。夫は1週間休暇中でしたが、私は翌日仕事だったので、職場に連絡せねばなりません。が、私と夫の携帯は繋がらない。延泊の手続きの後、山荘の方に相談したら山荘の携帯を貸して下さり、果たして電話はバッチリ下界と繋がったのでした。

山小屋への早々の撤退、山小屋の延泊の手続きと職場への連絡。たったそれだけの事で暴風雨から身を守れるのです。今回の登山の最大の教訓でありました。どうしても携帯が繋がらず、下界で大騒動になっていたとしても、下山を強行する危険を選択するよりもマシです。「お騒がせしました」で済むのですから。「撤退する勇気」とよく言いますが、勇気というよりも「お前、生きてナンボやで」と自分の肩をポンポンするイメージでありました。

さて。延泊を決定したので今日は一日中白馬岳山荘で停滞です。寒いので山荘カフェのストーブで暖まり紅茶など飲みましたが、暇…。読書室にもストーブの火が入ったので読書室へ。様々な本が並んでいる中、目に留まった「三国志」。横山光輝の歴史漫画です。何となく読み始めたら、これが滅法面白い！結局三国志でその日は終わりました。下山後、三国志は今16巻まで読んでます。夢中です！



暴風雨の中、下山を試みましたが無理！でした



白馬岳山荘のカフェにて。ストーブと紅茶で暖をとりました。寒い…



白馬岳山荘の食堂前にて。このアンテナで地デジを受信…！すごい！

こども応援プロジェクトby椎名伸志選手

2024年11月27日(水)

*一昨年度から、カターレ富山椎名伸志選手は『こども応援プロジェクト』として、地元企業とのコラボレーションにより、工場見学&ワークショップを継続して企画してくださっています。

今年度の会場は、「ユースキン製薬株式会社 富山工場」本社は神奈川県川崎市ですが、工場は10年前から富山市八尾に移転されています。

*久々のお出かけとあって、昼ごはんも早く済ませ、時間励行準備万端の子どもたち。「乳化の実験はちょっと難しかったかな…話聞けるかな…」と一抹の不安を抱えながら工場に到着したのですが…それは全く取り越し苦労に終わりました(笑)社長さんはじめ、社員さんの説明がとてもわかりやすく、クイズあり動画あり実験あり見学あり…と、子どもたちが飽きない工夫がたくさんあって、あっという間の90分でした。乳化の実験では、「みんな一斉にフリフリするよ。乳化剤を入れても待ってね」との指示が…。「待つ」子どもたちが最も苦手とすることのひとつではないか、大丈夫か…という心配をよそに、ボトルを手に静かに待つ子どもたちでした。お土産に、ミニミニユースキンと付箋をいただきました。子どもたちにとって、とても貴重な経験となり、またたくさんの刺激を受けることができたと思います。椎名選手、ユースキンのみなさま本当にありがとうございました!!



サカ牛産業さまより たくさんの食材をご寄付いただきました!

サカ牛産業株式会社(富山市富山市桜橋通り5番6号<https://www.sakaisangyo.co.jp/about/>)様より、Ponteとやまフリースタイルスクールの子どもたちにと、ふるさと納税の返礼品をご寄付いただきました。お米、豚肉、ハンバーグ、餃子、ピザ、ジュース…11月初旬、たくさんの食材がどんどん届きました。この週、フリスタLunchは超豪華に🌟月曜日はハンバーグ、火曜日は餃子、そして水曜日はピザ!!ハンバーグも餃子もこどもたちは大好きなのですが、毎日35食を1時間半程度で仕上げるため、そして個数を数えなくちゃいけないものは敬遠しがちだったのです。

「神戸牛うまい〜」「ピザサイコ〜!!」いつもにも増して食欲旺盛、もりもり食べて、午後からは元気いっぱい外で遊ぶ子どもたちでした。サカ牛産業さま本当に本当にありがとうございました!!



編集長 家森謙の **目** 伴走

▼今回の通信、7面に静岡方式の就労支援を取り上げた。地域に住む二千人超が伴走サポートする話。本当に素晴らしい取組みだ▼この話は就労支援だが、至る所に伴走は存在する。相談する人には相談される人が寄り添う。システム構築する人をサポートする技術者。生徒を個別指導する先生…伴走サポートが身を結ぶには何がポイントなのか? ▼**先ずはお互いを知り、尊重しあう所から**ではないだろうか。対等でなければ伴走にならない。やらされて続いても、伴走無くなったら終わりで実を結ばない危険だって有る。能動的取組みには当事者の納得が欠かせない。そして**お互い、相手に何か聞かれたら、聞かれた事に答える事も重要**。曖昧だったり何言ってるかわからない質問だと、曖昧な答えや一般論的な答えしか返ってこない。**何が困りごとや課題なのかをお互いを知る為、多すぎず少なすぎず、具体的かつ的を得たコミュニケーションの積み重ねが問題改善に欠かせない**▼筆者も「空色エンドロール」の伴走に取り組み始めた所だ。様々なやりとりをしながらお互いを知り、聞かれたことに極力わかりやすく端的に答える。そんな積み重ねで物は出来上がっていく。そしてお互い、自分では思いもしない気づきや知見が有り、視野が広がり、モチベーションも向上。今まで取り組んできた事が何だったかも時には問われる。でも、それを乗り越えれば、得られるのは人生の伸びしろという無形の財産

空色エンドロール

水縹 翠
みはなだ すい

第二回：夏の再来

「ほ、本当に濡？」

驚きのあまり、人目も憚らず声に出してしまう。すると、濡はため息をついた。

『別人なわけないでしょ。その証拠に、凧の瞳、見て』

そう言われ、改めて池を覗き込む。私の瞳は、確かに『空色』になっていた。

私の瞳は本来茶色である。濡特有の蒼眼に、私一人のこの場所で聞こえる声。これは。

「濡、私に『憑いた』の？」

『うん。ごめんね、こんな形で帰ってきて』

亡き親友が、霊の帰るお盆に、私に憑依する形で帰ってきた。願ってもない、だが奇妙な、親友との再会。最初、私の頭は混乱した。もういないはずの濡が、私に取り憑くという形で帰ってきた。こんなことがあるのか、と。

しかし、そんな些末な疑問は、胸の奥から溢れ出てきた感情にすぐ押し流された。

「ねえ、濡」

『何？』

「……おかえり」

とめどなく感情が溢れているはずなのに、零れんばかりのこの気持ちは、たったのその一言に収束した。そしてそれは、濡も同じのようだった。

『ただいま』

僅か四文字の、ありふれた言葉。ごく普通の挨拶。だが、その一言は、幾千のどの言葉よりも深く染み渡った。亡き親友が、帰ってきてくれた。

『あれ、もしかして泣いてる？』

「なっ……まだ泣いてない！」

必死に首を振る私の頭の中で、鈴を鳴らしたような濡の悪戯っぽい笑い声が聞こえる。

くすぐたくて、くだらなくて、でも、懐かしいこの感覚。また味わえるとは思っていなかった。

『でもさ、こうして凧に入れたのは運命だと思う。偶然かもしれないけど、そう思いたい』

「運命……」

私も濡も、あまり友人に恵まれてこなかった。互いに支え合った私達。濡の言葉は間違っていない気がした。もし、これを運命と言うのなら、その運命に存分に甘えたい。心は、決まった。

「濡、遊ぼう」

その言葉に、少し沈黙が流れる。それから。

『そう言うと思ったよ』

そう、返ってきた。私達だけの最後の夏を、始めよう。

——これが『終わり』だと、分かっていたからこそ。

空色エンドロール第一回(みやの森通信第36号)はこちらから

みやの森通信

検索 ↗



全国居場所づくり合宿 栃木 in Utunomiya

(内閣官房孤独孤立対策担当室 令和6年度孤独・孤立対策担い手育成支援事業)

参加してきました!

講演会に、大西連さん（認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい理事長）と首藤義敬さん（㈱Happy代表取締役社長）、事例発表に起業家4団体、モデレーターに起業家の濱野将行さん（一般社団法人えんがお代表理事）という豪華なメンバーでした。

*日ごろ、意識していなかったのですが、Ponteとやまでの活動の面白さ、楽しさは、濱野さんの提唱する「ニーズ×わくわく」に「希少性」を掛け合わせて「社会的価値」を生み出しているという図式にまさに当てはまっていると思いました。また、Ponteとやまの「支援する→支援される」の立場のあいまいさもニーズや仲間が集まってくる要因になっているということ、これも新たに気付かされたことでした。そして、山梨の「一般社団法人ヒトナリ」上田潤さんといろんな話がありました。その活動の場「ソーシャルハウス宝島」では子どもも高齢者も多世代の人が集っています。ぜひ行ってみたいと思います。

いろいろな人と会っていろいろな話を聞くことで、私たちの活動の見直しと、これからの可能性を考えることができました。現在私たちに足りない部分は「発信」かもしれません。活動の動画などを作って発信したいと思います。これからPonteとやまの仲間たちと、自分たちの特色を生かした居場所づくりをしていきたいとあらためて思いました。（川合祐司）

*一泊二日で宇都宮にて全国居場所づくり合宿に参加させていただきました。現地は乾燥してて富山とは少し違う寒さ。かたや合宿は対照的で、居場所に関わる各地のアツイ方々とお会いして交流することができました。さまざまなアツイ刺激を受け、ひとつテーマに感じたことは「お前は誰で、どんな人間で、何ができて、何を面白いと思うのか」でした。愛知から出てきて、Ponteとやまに関わって7年ほど経ちました。訳アリうっかり紆余曲折しながら7年。最近気づきましたが、自分にとっての”理想の居場所”像ってイマイチ明確ではないです。

居場所って個性やアイデンティティみたいなものを最大限に保てる場だと思ってます。あくまで”最大限”で、そこには人間関係など様々ありつつ7年”居”てます。7年居られる。自分にとっての理想に近いじゃ？ だったら今回のテーマに沿って「お前はなぜ7年も居るのか」を明確にすれば理想像も見えてきそうです。今後やってみます。

帰りにレコード屋で「富山から来ました」みたいな会話をしてレコードを1枚買ったらオマケCDを4枚もくれました。ウケる。ありがとう。

話は飛躍しますが、やっぱり店で買うのは明確に”楽しく面白い”体験。あの店20年続いてるらしい。とかを考えながら帰りました。

最後に、今回交流してくださった皆様、本当にありがとうございました！（西口直希）



本当本当に **広告募集。** みやの森カフェに居る加藤へ直接お話いただくか、
0763-77-3733(みやの森カフェ)、 miyanomori.ponte@gmail.com へそろそろ連絡を

募集中!

みやの森PORT 冬のスペシャルイベント

12月8日（日）、富山県リハビリテーション病院・こども支援センター医師森昭憲先生をお招きし、『子育て講演会』を開催しました。テーマは～**こどもの発達とかかわり方**～。子どもの発達がちょっと気になる...というパパやママ、おじいちゃんやおばあちゃん、そして幼稚園や保育園で日々子どもたちとかかわっておられる先生方にもご参加いただきました。



子育てには正解がなく、不安や悩みがつきものです。発達の凸凹や偏りがあるとすればなおのこと。周りと比べて心配になったり、つい将来までもが不安になってしまったり、ついには自身の子育てに自信がなくなってしまったり。子どもの成長や発達には個人差がある、人と比べてはいけないとわかっていても、見えない将来に不安は募るばかり。子どもとの日々の生活は、まったなしでやらなくてははいけないこともたくさんあって身も心も疲れ気味。さらに近年は、ICTの普及に伴い情報は溢れていて、何を選択して何を信じればいいのか...そこにも不安や悩みが生じてしまう。森先生のお話には、ママやパパたちへのたくさんのエールが詰まっていました。親は専門家ではなく、子どもの成長を見守り応援者として子どもと共に暮らす存在。「これでいいんだ」という自信と「一人じゃないんだ」という安心感を持つことができた方も多かったのではないかと思います。講演終了後は、森先生を囲んで昼食を食べながら情報交換の時間を過ごしました。お忙しい中、ご講演くださった森先生、本当にありがとうございました。

12月22日（日）は、**チームおむらいすん**さんによる

『**動いて楽しむミュージックシアター**』を開催しました。素敵なハーモニ～♪で始まったミュージックシアター。雪のちらつく寒い日となりましたが、かわいいお友達やママやパパたちも来てくださいました。はじめましての場所と人に、ドキドキしていた子どもたちも、お二人の優しく楽しい雰囲気、少しずつひきこまれていきました。



子どもたちの考える力、想像力、創造力、表現力...などなどを楽しみながら引き出す、参加型のパネルシアターやあそびうた♪はやっぱり楽しい！そして素晴らしい！！教員時代に毎日のように子どもたちと歌ったり踊ったり劇をしたりしていた日々を思い出し、私自身楽しんだあつという間の90分でした。

どの子も伸び伸びとその子らしいこども時代を過ごせるように...また、子育てにかかわる人自身もHappyで楽しく生きられるように...私たちPonteとやまスタッフ一同の願いです。

※みやの森PORTは、毎週金曜日11時～17時に開催中。
(時々日曜PORTもやっています。カレンダーにて要確認)

チームおむらいすん



おむらいすんこと(日語永貢子)と音楽担当 maimaiマイマイこと(本間麻衣子) 同じ保育園で出会い 2015年から、子育て支援の場面で、ミュージックシアターを中心に パネルシアター、遊び歌、季節の歌、ふれあい遊び、クラフトなどを組み合わせたプログラムで活動。時々チームメンバーが増えたり お邪魔した会場の方と一緒に作り上げていく参加型のプログラムを楽しんでいます。富山県内保育園や、支援センター、児童館で活動中！

みやの森通信 バックナンバーはこちらから

みやの森通信

検索 🔍



ホームページはこちらから

Ponteとやま

検索 🔍



知ってますか？

静岡方式

11月、県内外からいろんな方が視察に来てくれました。静岡県掛川市の「風の家」の皆さん、兵庫県甲南大学の先生、砺波市民生委員、富山大学の内地留学をしている先生、そして、静岡方式を実践している静岡と石巻の皆さん。

*静岡方式の皆さんは青少年就労支援ネットワーク静岡として若者の就労支援をしているのですが、長野の樋端先生から「みやの森と空気感が似てるよ」と前々から教えていただいていたので興味津々。そして静岡の皆さんも私たちの空気を感じてもらったらしく、「初めて会ったとは思えない」とロクに言われていました。こちらの活動の説明はできたのですが、静岡方式に関してはお話を聞けなかったので「そうだ！静岡に行こう」とおしりの重い私には珍しく静岡に行ってきました。

11月には学びプラネットの研修会があって、そこで福島から来ていた大谷廉さんに「静岡行きます」と言ったら、「僕も行きたい」というので新富士駅で待ち合わせしました。横浜の家庭裁判所に勤めている私の友人も誘って大谷さんと私、友人3人で行きました。新富士では津富先生までお迎えに来てくださっていました。偶然にも富士市は私の両親の故郷。私のとっても懐かしいところです。

静岡方式は、想像を超えた就労支援です。

県内に2000人を超えるサポーターがいて、

ひきこもりなど、働きたいけれども働けずにお困りの方にその地域に住むサポーターが伴走する。

本人はまず自分が働きたいという意思を表明して、宿泊を含むセミナーに参加する。

そのセミナーを終了した人に伴走支援が始まります。7割から8割の人が無業から脱出する。

ここでは困りごとを介して人がつながっていくところを萃点（すいてん）と呼んでいるそうです。

拠点をもたないために、その萃点は無限に広がっていく…すごいですね。

私たちと空気感が似ているのは、あまり「支援してあげている」という雰囲気がないことかもしれません。どの人が支援者なのかよくわかりませんでした。サポーターの方にもお会いしましたが、その方は「私はイベントとかはあまり好きではなくて、お寺の草むしりだけ若者たちとしています」とのこと。きっかけは自分のお子さんが亡くなったこと。若者たちと触れ合うことで生きていく意味を感じられるとおっしゃっていました。

青少年就労支援ネットワーク静岡は、サポステだけでなく、相談窓口、ひきこもり支援センター、困窮者自立相談支援などたくさんの事業所もやっている。どうしたらそんな展開ができるんだろう??…いろんな?が満載ですが、これからもいろいろ学ばせていただこうと思っています。



いろんな人が
立ち寄ってくれます

みやの森カフェ

10月、私たちがカフェの窓から外を見ていたら、どうも道に迷っているような男性発見。

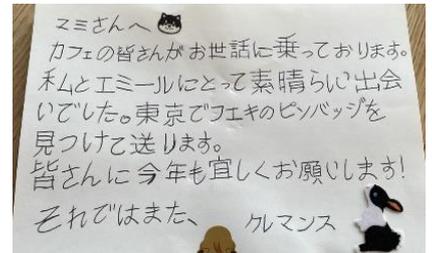
まみちゃんが走って行って声をかけました。「嚴照寺の大杉を見に来ました」とのこと。

「このまま、まっすぐ行って宮森新で右に曲がって・・・」とお教えしたら、足早にお寺に向かい、帰りに寄ってくれました。なんと、大阪在住の80代の方。城端線油田から歩いてきたそうです。油田からカフェまで確か6キロ、嚴照寺まではきつい坂を上ってかなり長い道のりです。全国の大きな樹木をカメラに収めるために回っているそうです。そんな話で盛り上がっていたら、わっしーさん登場!「砺波の街中にも大きな木があります」と車に乗せて砺波見物しながら「出町の大ケヤキ」にもお連れしたとのこと。さすが砺波の申し子ワッシーさん!

11月には静岡県掛川のNPO法人「風の家」の皆さんが来てくれました。

なんと、その中のお一人は、増山城を見に新高岡から自転車を走らせてその途中カフェに寄ってくださった女性。その日はあまりにカフェが面白すぎて長居してしまい増山城には行けなくなったとのこと。面白すぎてお仲間を連れてカフェに来てくれたそうです。「風の家」は、居場所や食堂、B型作業所もやっているそうです。

また、外国人の方もご来店。「どこからいらしたんですか?」と聞くと流ちょうな日本語で、「フランスからです」。ここで、まみちゃんと塚田さんが大活躍。一生懸命カフェの説明をしていました。日本語が上手な男性は、雑誌の記者だそう。「ここは、コミュニティカフェですか?」って。おお~コミュニティカフェをご存じ!「フランスにもこういうところありますか?」とまみちゃんが聞いたら、「日本にもこんな感じのところはないでしょう、面白いね。また来ます」そして、1月10日になんとこのクレマンさんからお手紙が届きました。一生懸命書いてくださったことがわかります。田んぼの真ん中にあるカフェで国際交流!嬉しいですね。



いただいたもの 及び Ponteとやま(みやの森カフェ)お仕事一覧

(2024年12月)

米 (カフェに、ゆうこさん、そして仙波さまからおいしいお米いただきました!)
カレンダー・菓子・ジュース・本・野菜・トイレトペーパー・ティッシュ

- 12月 2日 静岡県富士市「青少年就労支援ネットワーク静岡」訪問
- 12月 4日 両親学級 (ボディインスティテュート主催: 射水市) 講師 (水野)
- 12月 8日 森 昭憲先生学習会 12月12日 砺波市人権啓発講演会 講師 (水野)
- 12月15日 シェアハウスOPEN DAY
- 12月22日 チームおむらいすんクリスマスコンサート



みなさまのご厚意に
心から感謝いたします!

こんにちは Secure Base セキュアベース です!

昨年9月高岡市伏木に、子どもから大人まで誰でも集える居場所『Secure Base』をオープンしました。12月にはPonteとやまさんからご支援をいただきカフェも開始。スタッフは保健師、助産師、看護師。みやの森カフェに通ううちに自分でも居場所をオープンしたくなり始めちゃいました。まだまだ、発展途中中の居場所ですが、

「日常生活にちょっと疲れたなあ」「誰かに話を聞いてほしいなあ」

「ゆっくりとした時間を過ごしたいなあ」という方々・・・

ぜひ『Secure Base』に遊びに来てください。お待ちしております♪

オープン時間 毎週 月・水・金・日曜日
午後1時から5時

住所 高岡市伏木国分1丁目8-1



お問い合わせはインスタグラムのDMで。
イベントなどの案内もインスタグラムにて更新中です。よかったらフォローお願いします!

広告